



## 平成 18 年 3 月期 第 3 四半期業績の概況（連結）

平成 18 年 2 月 2 日

上場会社名 株式会社 神戸製鋼所 (コード番号:5406 上場取引所 東 大 名)  
 (URL <http://www.kobelco.co.jp>)  
 代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 犬伏 泰夫  
 問合せ先責任者 役職名 秘書広報部長 氏名 泉 博二 TEL(03)5739-6010

### 1. 四半期業績情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有  
 税金費用等の計上方法について一部簡便な方法を採用しております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

鉄鋼関連、電力卸供給、アルミ・銅関連事業のたな卸資産の評価方法については、従来、主として後入先出法を採用していましたが、当第 1 四半期より主として総平均法によっております。この変更は、近年の鉄鉱石、石炭、アルミ・銅地金等主要原材料の市場価格の大幅な変動により、たな卸資産の貸借対照表価額と市場価格が乖離する傾向が顕著になったことを受け、これら原材料の市場価格の変動をたな卸資産の期末残高に反映し、財政状態をより適切に表示することを目的に行なったものであります。この結果、従来の方法によった場合と比べ、第 3 四半期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 12 月 31 日）の営業利益及び経常利益がそれぞれ 18,165 百万円増加しております。

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有  
 連結 (新規) 10 社 (除外) 7 社 持分法 (新規) 1 社 (除外) 1 社

### 2. 平成 18 年 3 月期第 3 四半期業績の概況（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 12 月 31 日） 経営成績（連結）の進捗状況

(注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第3四半期	1,191,734	-	157,616	-	128,077	-	62,889	-
17年3月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-
(参考)17年3月期	1,443,771		166,576		116,028		51,288	

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
18年3月期第3四半期	20.96	20.27
17年3月期第3四半期	-	-
(参考)17年3月期	17.27	16.48

(注) 当社は平成 18 年 3 月期第 1 四半期から四半期業績を開示しているため、平成 17 年 3 月期第 3 四半期の実績及び対前年同四半期増減率(%表示)は記載しておりません。

### [事業の種類別セグメント情報]

当第 3 四半期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 12 月 31 日）

(単位: 百万円)

	鉄鋼関連事業	電力卸供給事業	アルミ・銅関連事業	機械関連事業	建設機械関連事業	不動産関連事業	電子材料・その他の事業	計	消去又は全社	連結
売上高	554,727	46,362	226,005	160,288	165,772	33,193	43,320	1,229,670	37,936	1,191,734
営業利益	97,855	13,234	17,334	2,574	6,492	3,587	13,029	154,109	3,506	157,616

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

わが国経済は、企業収益が高水準で推移するもとの、民間設備投資が引き続き増加しているほか、個人消費も雇用者所得の増加を受けて底堅く推移しており、景気は着実に回復を続けております。海外においても、原油価格の高騰などによるインフレ圧力の高まりはあるものの、全般に好調を持続しております。

このような経済環境の下、当社グループの第3四半期決算(平成17年4月1日～平成17年12月31日)は、売上高1兆1,917億円、経常利益1,280億円、税引後純利益628億円となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりです。

鉄鋼関連事業につきましては、自動車、造船など国内製造業向けの需要が好調を持続する一方、汎用品については中国の生産拡大に伴う需給の緩和が進展し、製造業向け高級鋼と汎用品の二極化が鮮明になっています。

このような状況の下、当社は、高水準の生産を続ける需要家に対する鋼材の安定供給を最優先課題としつつ、需給の変化や在庫動向を注視しながら、各分野・各品種毎に実需に対応した慎重な生産・出荷を行なっています。販売価格に関しては、国内製造業向けに価格の改善が進捗いたしました。一方で、国内外の汎用品の需給軟化が進展する中、当社は価格重視の受注姿勢を堅持しており、上半期より実施中の輸出向け減産に加え、国内向けの薄板についても減産に取り組んでおります。

電力卸供給事業については、概ね計画通りに進捗しております。今後も発電所の安定操業に万全を期して、所定の収益確保に努めてまいります。

アルミ・銅関連事業につきましては、国内向けの飲料用アルミ缶材の需要が堅調に推移したほか、電子材料用銅板や磁気ディスク用アルミ基板も引き続き好調さを維持しています。一方、銅管では欧州エアコン市場が伸び悩むなど、一部の分野で需要の陰りが見られています。

また、アルミ、銅とともに原料市況が高騰を続ける中、総平均法に基づく在庫評価の影響により、当期の収益が押し上げられています。

機械関連事業では、中東や中国を中心として世界的に石油・エネルギー業界の設備投資が活発であり、圧縮機や樹脂機械、LNG機器、石油精製用の高圧容器などを中心に、堅調な受注状況が継続しています。国内公共分野では引き続き厳しい事業環境が継続していますが、受注確保とコスト改善に努めてまいります。

建設機械関連事業におきましては、油圧ショベルの国内需要が引き続き堅調であるほか、中国市場も回復感が確かなものになりつつあります。

不動産関連事業は、マンション販売事業を中心に概ね計画通りに進捗しています。

電子材料・その他の事業では、液晶パネルの配線膜に使われるターゲット材の需要が引き続き好調に推移しています。

[参 考]

平成18年3月期の連結業績予想(平成17年4月1日～平成18年3月31日)については、3月上旬に開示予定であり、現時点では見直しを行なっておりません。

以 上